

### 1 自己評価及び外部評価結果 つつじ2階

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100027		
法人名	富士工業株式会社		
事業所名	グループホームつつじ2階		
所在地	田村市大越町上大越字古内館野40-5番地		
自己評価作成日	令和元年9月27日	評価結果市町村受理日	令和元年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和元年11月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第一に利用者様の思いを大切にしている。本音を探り心地良い居場所を提供している。中にいると季節感が曖昧になってしまうため壁画や野の花、食材なども季節の旬のものを使用して説明しながら一緒に食べている。出来る事はやってもらい自立支援に努めている。明るい雰囲気笑顔が絶えないホームでありスタッフも生き生きと働いている。まる8年経過しており地域の中でも認められるようになって来ている。田村市の防災訓練にも位置づけられ地域の消防団が手助けしてくださり避難訓練が行われる。(10月6日午前10時から)スタッフの年齢層は20代30代は少なく熟年層が多い。スタッフの定着率も良い。昔食べたことのある料理が出たり、行事も昔を再現して取り行なったりして利用者に喜ばれている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果 2階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホームつつじ理念とも2階事務所に掲示してあり2階で朝のミーティングを行なう時は唱和して各自念頭に置き実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の道路清掃や草刈にスタッフも積極的に参加したりホームでのお祭り等に招待してきて頂いたりしている。又地域のレクボランティアさんにも来て頂いたりつながりを強めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	船引南中から体験学習の生徒を受け入れ認知症のことやグループホームの役割について説明をしたりしている。又 今年には初任者研修の体験学習者3名を受け入れている。運営推進会議でも認知症の方の現状を講評して理解してもらえ努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議ではヒヤリハットの誤薬などの対策について検討したり他のホームでの対策例などを地域包括からの出席者の委員から問い掛けがあったり又桜や紅葉のいい場所を教えて頂いたりしている。もっといい運営の方法を検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	3ヶ月に1度視から介護相談員さんが来所され利用者の声を聞いて下さったり、ホームの介護員も相談したりしている。相談員さんが召集する市の会議等にも出席している。良い関係を保っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは身体拘束をしない宣言をしているため日中は玄関の鍵を施錠しない。見守りと話しの傾聴で対応している。夜間は2人体勢のため玄関の施錠をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ネットから虐待と言う行為はということが該当するのかとりだしてスタッフ会議などで話し合い全員に周知して身体も言葉の虐待もやらない。丁寧に接している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度に関する書類をとり寄せ書棚に保管している現在該当者はおられないが、必要のある時は対応してあげたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解除、改定の際は解りやすい言葉で説明している。ほとんど管理者がやるため(スタッフは)経験は無い。きいているとここまでは解りますかと言いながらしているため丁寧さはわかっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者も家族代表者も出席しており、発言できる機会はある。1階入り口付近にご意見箱を設置しており、あった場合にはスタッフ会議で検討し又運営推進会議で話し合いを行い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回スタッフ全体の会議があり管理者や代表者に意見や提言をする機会がある。代表者は日曜日に各ホームを巡回して利用者やスタッフと話しを聞いており改善点があれば運営に生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎週日曜日に来所してくれスタッフ個人個人の動きや考え方を把握しており各自が向上心の持てる様な話しをしており職場環境や条件の整備に努めている。管理者も有休取得など平等に取れるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は来所してスタッフ間の信頼関係を保つ取り組み組や健康管理に留意して笑顔で働く事の大切さを推奨している。又資格取得に関しても今年は2名のスタッフを初任者研修に出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しておりそこからの研修に参加することにより他ホームのスタッフと情報交換もあり良いところは取り入れ介護の質の向上に努めている。最近では研修の通知を回してもいけない状況の時もある。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりの利用者は帰宅願望や不穏になりがちなのでスタッフは情報などを共有してサービス対応は同じ方向をむいて行なう様に心掛けている。スタッフへの信頼関係構築の為に傾聴する姿勢で関わる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	表向きの言葉でも本音ではいえない言葉も察しながら気を配る事も忘れず、良好な関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に本人と家族からの聞き取りと前ケアマネージャーの情報も得て必要としている支援を見極め医療とも連携して対応している。必要な時は地域包括センターの協力も頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは全てにおいてお世話する人ではなくさせて頂くという思いで支援している。困りごとを傾聴しながらよりそって支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の事で問題が生じた時も家族と一緒に解決に向けたお話し合いをして家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々馴染みの人が面会にきてくれる事もあるが、こちらから出向いて行く事は中々出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちょっと寒かった時に後ろにかけてあったカーディガンを着せてあげたりしている利用者も居られる。お互いに関わりあいをもって同居人として支えあういい関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	このホームからリハビリテーションのホームに移動された利用者がいて用事があった訪問時に声をかけ励ますと嬉がっていた。御家族が同じ市に住まわれている方は、スーパーなどでお会いした時に近況を聞いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言われることを傾聴しながら寄り添うように心掛けている・帰宅願望等については御家族の意向もあり叶えられないこともしばしばある。家族と相談して面会をふやしてもらったり外泊等も進めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に価値観や大切にしている思いなど連携するケアマネと情報を共有してこれまでのくらしの実態の把握に努めている。また本人と話す中で理解を深めるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態やもっている力など様子を観察して情報を共有し現状を掴むようにしている。無理に同じことをさせるのではなく1人ひとりのやりたいことを聞いて望む暮らしを支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議で利用者カンファレンスを開き意見や情報を交換してモニタリングも行なってケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人のケースを記録に残して、その時不在のスタッフも後で読んで情報を共有して見直しより良いケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少しずつ変わって行く利用者の心身の状況にあわせてその時々に合わせて介護している。本人と家族が望む限りここでの生活を支援して行く努力をしている。今では看取りの同意書を提出している方4名おられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の介護タクシーを利用して病院へ行ったり格安な乗り合いタクシーを利用して好きな物を買って来たり気分転換できる支援もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望は優先して雇い付けの病院へ行かれる時はバイタル表や近況をお手紙にかけて渡すよう支援を行い又受診後もDrに言われた事を守る介護をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内で正看護師1名と契約しており毎週訪問して利用者の状態をみて必要な時は受診やお薬の変更などいろいろと関わってくださる。又こられてない時も急変時の時の対処など電話で指示を頂いて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時は雇い付けの滝根診療所の本院が南東北病院のためスムーズに入れるようDrやNsと良い関係を築いている。連携の看護師もよくやってくれている。入院後も時々面会に訪れ励ましたりしている。その時に医療関係者とも話しをして関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた看取りなど、その時期になったら御家族と話しあい同意を得て利用者の状態に合わせて支援に取り組めるよう努めている。看取りについては指針が有りマニュアルにそって心身の状況に合わせて関わる事になっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは救急救命の講習を受けており事故発生時に備えている。急変時にもホーム内にマニュアルを作成して誰でも対応できるように準備しているが定期的な訓練は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は地域住民を巻き込んだ避難訓練を実施している。出てきてくれるひ人は大体きまっており運営推進委員の人達だけである。その他の月は歩けない入居者を運ぶ訓練を消防署員に指導頂いたり本庁との通報訓練や緊急連絡網を回す訓練を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には一言一言丁寧に話しかけ自尊心を傷つけないように対応している。個人の生活歴を考えてこの方はこうなんだと認めてあげるようにしている。排泄の時も必ず戸を締めてさせる様に気がつかっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2階の利用者は皆おとなしい性格なため本音の思いを汲み取ることを忘れずに働きかけ自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人で居室で過ごしたいときはそれを理解し皆でやる事やできることには声かけしてあげるようにしている。(体操やレクなど)皆でやる壁画づくりなどには声を掛けてみる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たいものを優先しつつも認知症により季節に合わないときは本人とお話して今はこれのほうが似合うよと声かけして着て頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	スタッフは利用者と一緒に同じテーブルで同じものを食べて美味しいですか？とかこの料理はこうやって作ったんですよと会話をしながら楽しい食事を演出している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスと言う点では栄養士さんが作成したメニューに基いて調理している。Drの指示がある人も居られるため1人ひとりに合わせた支援をしている。中々取れない人にはゼリーや好きな飲み物を提供したり工夫して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯の根の方も仕上げ磨きを手伝うなどして力を入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は安眠を重視してテープ止めとパットを使用している方も居られるが日中はリハビリを使用しトイレ誘導を行い自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常でも繊維質の食材を使用多めの水分をとって頂く。2階では30分～40分運動を仕向けている。それでも頑固な便秘には下剤を使用してだして頂く。(～3日で)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の時間は決まっている。身体の調子や便失禁の時はその都度対応している。湯船に長くつかっていたい人にも心ゆくまで対応して時間が少ない時は人数を調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後1・5時間位のお昼寝があるがされない人も居られる。空調が調整された個室であるため気持ちよく休んで頂いていると思っている。就寝前には気になる事や興奮させるようなことは一切しないで穏やかに休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほとんど全員に服薬がある。種類が多いと把握することが難しいが1人ひとりの誤薬がないように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や御家族から得た情報により趣味や特技を知り活かせるようにプランに組み入れている。個人の趣味に対してはこちらで強要することはない様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの数のこともあり希望通りには中々行かない。御家族が見えたときに事情をなして連れ出してもらう事もある。ホームでは季節毎に桜や紅葉又外食など利用者全員を連れ出すこともある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品や多額のお金は事務所で預かって管理している。外出時一定額をわたして好きな物を買って支払いが出来る人もある。スタッフがついて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人親戚などから届いた手紙やハガキは必ず渡すようにしている。電話で話したいときも番号をまわして繋げてあげる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に作成した季節の壁画を飾ったり野の花を生けたりして季節感を取り入れている。空調にも常に気を使い居心地良い居場所を提供できる様に努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の居室は個室であり1人で過ごす事も出来る。ホールに出れば気の合う仲間とお話ししたり大型テレビを観たり寛げるスペースもある。和室には炬燵も設えてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自分の趣味の作品を持ち込んで居室に飾ったり自分の好きなテレビ番組を観たい人はテレビを持ち込まれたり、気疲れしない状況のもと居室で楽しんでいる。ダンスや調度品など馴染みの物を持ちこんでいる人も居られる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室エアコン整備されている。リモコンで操作できるが空調についてはスタッフが調整管理している。建物内部はわかりやすい間取りになっており利用者は自身の居室にスムーズに移動できている。		